

0120 | 心理学

2 単位 (通信授業 2 単位)

荒川歩准教授、浅井千絵講師

授業の概要と目標

心理学を研究する専門家は、よくこのような質問をされることがあります。「心理学を学ぶと人の心が読めるようになるのですか？」答えは「いいえ」です。しかし、心理学を学ぶことで、心を「透視」するのではなく「理解」するための言葉を増やすことは可能です。例えば、仕事や人間関係でトラブルがあり、多くの悩みやストレスを抱えることがあります。そのような時、その悩みやストレスが私たちの心身に与える影響に対する知識を持っていれば、その不調の意味や現象を理解し、場合によっては適切な対応が可能になるかもしれません。また、物忘れに悩んでいる人が記憶や認知の心理学の知識を持っていれば、実は自分だけに起きている現象ではないことを理解して悩みが和らぐかもしれません。また時にはその対処方法の手がかりを得ることができるかもしれません。

このように、私たちの身の回りには、「心理学」という学問に関わる現象がたくさん存在します。みなさんもそれぞれ心とはどんなものかについて自分なりに知っていると思います。ところが、近代の心理学は、「自分たちが心に対して知っていること」は、思い込みかもしれないという不安から始まった学問です。そのために、実験など思い込みの影響をできるだけ小さくしようとする方法を用いてきました。この科目では、心理学の知識、心理学のさまざまな概念を理解するとともに、その知識を使うこと、そしてその限界について学習することを目的とします。

課題の概要

以下課題 1、2 とも「論理的」な文章表現を重視する。

○通信授業課題 1

教科書に基づいて、心理学にはさまざまな領域があることを理解すると共に、他者や外界の事象が我々個人の心理にどのように関わってくるのかについてとらえる課題。

○通信授業課題 2

教科書の各章、及び通信授業課題 1 の結果を参考に（あるいは応用）して、日常の諸問題を心理学的にどうとらえるかという課題。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書を使用する。

1 章 心理学とは	8 章 発達
2 章 知覚	9 章 発達の障害
3 章 知覚の障害	10 章 性格と社会的認知
4 章 記憶と学習	11 章 人間関係
5 章 認知	12 章 社会的影響と集団
6 章 感情	13 章 心と脳
7 章 自己	14 章 病理

成績評価の方法

◎科目試験

教科書の該当部分から出題（記述式）。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：荒川歩・浅井千絵編『考えるための心理学』（武蔵野美術大学出版社 2012 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）